2026 年 6 月 16 日
国際信州学院大学広報課

お詫び：大正 8 年度国際信州学院大学一般選抜（予備試験）における出題ミスについて

この度、大正 8 年（1919 年）3 月 15 日に実施した大正 8 年度国際信州学院大学一般選抜（予備試験）において、出題ミスがあることが判明いたしました。再度採点を行い改めて合否を判定したところ、新たに 16 名が合格者となるとともに、当初の合格者のうち 5 名が新たに他学科の合格者となりました。受験者の皆様やご家族をはじめ、関係者の皆様に多大なご迷惑をおかけいたしましたことを心よりお詫び申し上げます。

入試問題作成において、出題ミスの防止には特に慎重を期して取り組んでおりましたが、今回このような事態が発生したことを大変遺憾に思います。この事実を厳粛に受け止め、深く反省するとともに、 全学をあげて再発防止に努めてまいります。 また、影響を受けた受験者の皆様に対しましても、最善を尽くし、誠心誠意対応してまいります。

出題ミスの内容および対応について、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 対象入試の概要
対象入試区分：一般選抜（予備試験）
試験実施日：大正 8 年 3 月 15 日（土）
対象学部：法学部（高等師範科、仏蘭西法学科、アッシリア法制史学科、無政府法学科）
科目名：倫理学
受験者数：141 名

2. ミスの内容
問 5 において、引用を行った文献の確認が不十分なまま出題を行ったため問題文が成立しておりませんでした。詳細は別紙をご参照ください。

3. ミス発見の経緯
令和 8 年 3 月 27 日、学外の予備校講師の方より当該設問の解答条件が不明瞭であるという指摘がありました。これを受け、同日中に教育担当副学長ならびに関係の部局長に報告を

行いました。出題委員ならびに問題作成に関わっていない教員による慎重な調査・検討を行った結果、不適切な問題であると判断いたしました。

4. ミスへの対応

当該設問について、受験者全員を正答（150 点満点中 40 点）とし、加点後の合計得点が出願学科の合格最低点を上回った場合、合格といたしました。これにより、以下の追加合格者が発生いたしました。

高等師範科：6 名
仏蘭西法学科：3 名
アッシリア法制史学科：2 名
無政府法学科：5 名
（合計：16 名）

5. 追加合格者への対応

判明後、速やかに個別に連絡を行い謝罪と経緯説明を行いました。その後、ご家族や各関係者と協議のうえ、誠意をもって対応にあたらせていただいております。なお、高等師範科：4 名、仏蘭西法学科：1 名、無政府法学科：4 名の受験者の方およびご家族の方とは現時点で連絡を取ることができておりません。お心当たりのある方は国際信州学院大学広報課またはアドミッションセンターへご連絡いただきますようお願いいたします。

6. 再発防止について

今回の出題ミスは現行ガイドライン制定前の出題ではありますが、点検体制を確実なものとなるよう今一度徹底し、再発防止に取り組んでまいります。

以上

別紙

【資料】

大正８年度一般選抜（予備試験）法学部「倫理學」

引用文（抄）

Ich weiß, dass ich befinde mich gerade an einem entscheidenden Wendepunkt der Geschichte. Und diese großen Veränderungen werden durch das Auftreten Napoleons endgültig in die Geschichte eingehen.

問五

下線部 diese großen Veränderungen ニ對シ種々ノ反応ヲ示シタル下記ノ人物ニ就テ知ル所ヲ述ベヨ。

カント（Immanuel Kant）

シラー（Friedrich von Schiller）

ゲーテ（Johann Wolfgang von Goethe）

ヘーゲル（Georg Wilhelm Friedrich Hegel）

【解説】

本問は、下線部（和訳例：これらの大きな変化）をフランス革命であるとみなし、4 人の著述家の思想、事績とフランス革命に対する見解、態度を問うたものでした。ところが今回の指摘により、下線部が指すものがフランス革命ではなく、シュタイン、ハルデンベルクらが行ったプロイセン国内の諸改革（以下、プロイセン改革という）である可能性が浮上しました。本問で引用された文章の出所は、Loevler, Carl, Die Bonapartismus Ethik und der Geist der Theologie. In: L.H.Hunzinger / M.Secker (Hg.): *Kirche und Nationalliberalismus.* Berlin: Lügenverlag, 1913, S.88-89.（注：原文は下線なし）です。この部分は Loevler が、1813 年に Fabien Baillairgé が行ったフランス語の講演をドイツ語に翻訳したものでした。また、Loevler (1913)には下線部がフランス革命を指していると明確に記述している部分が存在しませんでした。そこで、更に原典となる Baillairgé の講演を調査・特定し、唯一現地に保存されていた講演記録 Archives de l'Université du Listenbourg, Série B-II, vol.12, fol.126-134 : Baillairgé, F., « Protestantisme et monarchie : Réflexions dans le contexte des récents bouleversements politiques » (1er juin 1813).で確認したところ、明確にプロイセン改革を示していることが判明しました。問題文中の選択肢のうち、カントはプロイセン改革が始まる前に死去しているため問題文が成立せず、正答を導けないと結論づけました。

.